

中・長期目標 (学校ビジョン)	生徒一人ひとりに寄り添った指導を行い、生徒の学力向上と進路実現を支え、地域や保護者からの信頼を獲得する。今後の受験状況やニーズに合わせた予備校のあり方を考え、実践し改革を行う。	今年度の重点目標	1 生徒の現状に適した充実した授業・サテライン・AI学習を行う。
			2 生徒一人ひとりに寄り添った面談・学習アドバイスをを行い、自律的な学習者を育てる
			3 保護者と情報共有を行い、信頼関係を築く。
			4 教職員間での情報共有に努める。
			5 成績の向上、進学実績の向上を図り、より多くの生徒が集まる学校をつくる
			6 地域への情報発信を積極的に行う。

年 度 当 初					評価結果 5月		
評価項目	現状認識	具体的目標	具体的な取り組み	評価基準	経過・達成状況	評価	改善方策
1 授業 サテライン AI	○生徒の習熟度に合わせたクラス授業の設置が難しい。サテラインやA Iをもっと有効に活用し生徒に適した学習役立てる必要がある。	○クラス授業では入試で問われる力を生徒に伝える。 ○サテラインやA Iで生徒に適した学習を行っていくためのサポートをする。	①授業アンケート結果に基づき査定を行う。 ②サテラインの進捗状況を把握し、アドバイスをを行う。 ③AIを活用し生徒に合わせた学習のサポートを行う。	①授業アンケート（5段階評価）結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の60%以上 ②サテラインの進捗状況を把握し、アドバイスをを行う。 ③AIを活用し生徒に合わせた学習のサポートを行う。 A：①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：①～③のうち1つ達成	①37.1%であった。 ②面談時などに行うことが出来た。 ③AIに積極的な生徒に実施できた。	B	5段階評価の「とても満足している」がより増えるような授業を実施していく。
2 生徒と面談 学習アドバイス	○生徒と学習面における長期目標・ビジョンの共有が不十分である。 ○学習計画の実践が不十分である。	○定期的な面談を実施し、長期的な目標・ビジョンを共有する。 ○教科ごとの学習計画を考え、実施、評価をを行う。 ○授業以外でも積極的に声掛けを実践する。	①面談の実施 ②担任アンケート結果に基づく査定を行う。 ③前期・後期の教科カウンセリングの実施 ④授業以外でも積極的に声掛けを実践する。	①面談の実施回数が2回以上 ②担任アンケート結果に基づく評価項目「とても満足している」以上が全体の50%以上 ③前期・後期の教科カウンセリングの実施 ④授業以外でも積極的に声掛けを実践する。 A：①～④すべて達成 B：①～④のうち3つ達成 C：①～④のうち2つ達成	①春・夏・冬・出願時の4回実施 ②77.6% ③前期は実施できたが、後期は全体としては実施できなかった。 ④生徒又は先生による	B	教科カウンセリングや2者面談を積極的に実施していく。
3 保護者との 情報共有	○保護者の言葉・要望に傾聴することが不十分である。 ○保護者への定期連絡が不十分である。	○三者懇談時に保護者アンケートを実施し、保護者の言葉・要望に傾聴し、それをを踏まえた面談の工夫や改善を行う ○生徒との二者面談の報告などをGoogleスプレッドシートで共有する。 ○欠席率が高い生徒・保護者への連絡を密にする	①アンケート結果にもとづく査定の実施 ②生徒との二者面談の報告などをGoogleスプレッドシートで共有する。 ③欠席率が高い生徒（連続3日欠席・同じ講座を連続2回欠席）・保護者への連絡を直ちに行う。	①保護者アンケートの評価項目「とても満足している」以上が全体の80%以上 ②生徒との二者面談の報告などをGoogleスプレッドシートで共有する。 ③欠席率の高い生徒への連絡を実施 A：①②③すべて達成 B：①②③のうち2つ達成 C：①②③のいずれか1つ達成	①76.8%であった ②活用することができた ③適宜行った	B	面談の時には、コミュニケーションが取れた。日々のコミュニケーションを取るようにすることが今後の課題である。
4 教職員の 情報共有	○教職員の情報共有が不十分である。	○学習に関わる話し合いを実施し、新しい授業の実践を行う。	①学習に関わる話し合いを実施 ②集団個別指導の指導方法の共有 ③新指導要領・生徒のニーズに合わせた授業の実施	①学習に関わる話し合いの実施 ②集団個別指導の指導方法の共有 ③新指導要領・生徒のニーズに合わせた授業の実施 A：①②③すべて達成 B：①②③のうち2つ達成 C：①②③のいずれか1つ達成	①新しい講座についての情報共有などを積極的に行った。 ②不十分であった ③入試に対応した講座が設置できた。	B	AI学習の学習方法や活用法について、教員間での情報共有を実施する。
		○生徒の情報交換の場を設ける。	①生徒情報の共有フォームを活用する ②特別に情報共有すべき生徒については、こまめに全体への情報共有を実施する。 ③生徒に向けて次のアクションを起し、報告を密に行う。	①生徒情報の共有フォームを活用する。 ②特別に情報共有すべき生徒については、こまめに全体への情報共有を実施する。 ③生徒に向けて次のアクションを起し、報告を密に行う。 A:①～③すべて達成 B：①の達成かつ②・③いずれかの達成 C：①のみの達成	共有フォームを活用することが出来ず、生徒情報の共有が口頭のみになってしまった。	D	生徒の情報共有をシステム化する必要がある。
		○運営に関わる会議を充実させ、情報共有と意見が出しやすい環境作りを実践する。	①職員会議を実施をする。 ②資料などの準備を2日前までに言い、会議前までに目を通してもらう。 ③意見を言いやすい環境を作る。	①職員会議を実施をする。 ②資料などの準備を2日前に行い、会議前までに目を通してもらう。 ③意見を言いやすい環境を作る。 A:①～③すべて達成 B：①の達成かつ②・③いずれかの達成 C：①のみの達成	①職員会議を基本週1回実施した。 ②資料が直前になってしまった。 ③意見は昨年に比べて言いやすい環境ではあった。	B	資料を事前に共有し、少しでも効率の良い職員会議の運営を行う。

5進路の実現と 生徒数獲得	○合格者は出ているが、 難関大学合格や高校・中 学へのトップレベルの合 格が少ない。	○高卒生のニーズに合わせた、 合格に向けた授業の実践・合格 のための科目ごとの学習計画の 作成・長期的な目標・ビジョン を共有し、教科ごとの学習計画 を考え、実施、評価を行う。	○高卒生の国公立大学進学率60%以 上かつ難関大学・医歯薬合格率20% 以上	○高卒生の国公立大学進学率60%以上かつ難関大学・ 医歯薬進学率20%以上	国公立大合格率69% 難関大・医歯薬進学者 2名	B	難関大にも合格できる ように学力を伸ばす必 要がある。
	○校外向けにあすなろの 魅力の発信が不十分であ る。	適切な時期に効果的な広報活動 を行う。	①短期講座の案内 ②魅力の伝わる生徒募集の実施 ③HPやSNSを活用し、発信	①短期講座の案内を3～4週間前を目安に情報を公開す る。②生徒募集ではあすなろの魅力がわかりやすく、 興味深いものにする。③HPやSNSを活用し、あすなろ の取組みを発信する。 A：①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：①～③のうち1つ達成	①実施できた。 ②生徒数を伸ばすこと が出来なかった。 ③SNSの活用ができな かった。	C	生徒募集のときにもつ とあすなろの良さが伝 わる説明を職員全員が できるようになる。
	○生徒数が定員を満たし ていない。	○今後も生徒に寄り添った指導 を行い、自然に生徒から選ばれ る、口コミで良さが広がってい く学校をつくっていく。	生徒数を伸ばす	A：全生徒数が100名以上 B：全生徒数が60名以上 C：全生徒数が30名以上	大学受験科（浪人生） 生徒数は34名であった	C	あすなろでの取組み を広めるように努力す る。
6地域への 情報発信	○鳥取県の学力の現状や 受験の仕組みの変更が、 一般には知られていな い。 ○R2年はオンライン質問 教室を実施したが、今年 もこのような社会貢献活 動を実施していく必要が ある。	○地元予備校として、受験に関 する情報を地域に発信する機会 をできるだけ設ける。	○校外生2名以上参加を目標に一般 公開の進学セミナーを実施・セミ ナーアンケートの実施・要項の作 成。	①進学セミナーなどの実施②各説明会ごとに校外生5名 以上③アンケート結果の評価項目「とても満足してい る」以上が全体の70%以上④要項の作成とスムーズな 実施 A：①～④すべて達成 B：④の達成かつ①～③のうち2つの達成 C：④の達成かつ①～③のうち2つの達成	①高卒生に対して年2 回実施できた。 ②高卒生を集めること はできなかった。 ③73%であった ④スムーズに実施でき た。	B	生徒・保護者にとって 有意義なセミナーを今 後も実施していく。
		○社会貢献活動を実施。新聞な どに取り上げてもらう。	○中学校・高等学校からの依頼での 進学講演の実施 ○あすなろ主催での社会貢献活動の 実施。 ○新聞などに取り上げてもらう。	①中学校・高等学校からの依頼での進学講演の実施② あすなろ主催での社会貢献活動の実施。③新聞などに 取り上げてもらう。 A:①～③すべて達成 B：①～③のうち2つ達成 C：B：①～③のうち1つ達成	①実施なし ②実施なし ③実施なし	D	社会貢献活動を実施。 新聞などに取り上げて もらう。